



町長日誌

No.265

町長日誌の第 265 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を
町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

11月15日（土曜日）AM11:00

先ほど中央公民館で PTA 連合会研究大会が開催されご挨拶をしてきました。今月は毎週、出張のため役場にいる時間が少なく、明日からは札幌・東京へと出張が続きます。先週は長崎大学を訪問して来年度の出張医確定のお礼を教授にしてきました。大学病院からの次年度の医師派遣は毎年 11 月には決まります。現在派遣して頂いている札幌医大放射線科と旭川医大脳神経外科についても今年度同様の派遣が決まりましたので 12 月にはご挨拶に伺う予定です。

10月19日（日曜日）

西興部村開村 100 周年記念式典が執り行われました。ご存じない方もいらっしゃるでしょうが大正 14 年 1 月 1 日当時の興部村から分村して当時の瀬戸牛地区と上興部地区が一つになって西興部村が誕生したのでした。当時の興部村は人口が 1 万人を超えていましたが西興部村は石灰山と林業で栄える約 4 千人の村として独立したのでした。今日、どちらの自治体も人口は大きく減り産業形態も変わりましたが、「これからも協力し合ったまちづくりを進めさせていただきたい」と祝辞で申し上げました。

11月14日（金曜日）

夕方、雪印メグミルク(株)の常務執行役員一行が来庁されました。当初、決算報告と言う事だったのですが、常務からは「令和 9 年 3 月末で興部工場の練乳（コンデンスマilk）生産を終了し、練乳事業は製造を他社に委託することに取締役会で決定したので報告に参りました。」というお話をしました。全く突然の話で私も狐につままれた状態という様な状況でした。実は今から 18 年前の平成 19 年 4 月 23 日、私の 2 回目の無投票当選した翌日でしたが雪印乳業東京本社から川成専務が見えられ「取締役会において興部工場の粉乳製造を今年 7 月 1 日から止め、練乳を中心とした工場にすると決定した。従って正規採用職員 32 名のうち 11 名を他工場に移動させる。」という話があって現在の興部工場に至っています。この数年間で浄水場、独身寮、そして社員住宅の整備と順番に投資をして頂いていた矢先だけに大変なショックであります。また、受け入れている農家の生乳をどうするのか？ 再雇用は？ など詳しいことは何も決まっていないと言う事で、町としても議会や農協・商工会など関係者による対策会議（案）を立ち上げるなどの対応策を講じていきたいと考えています。

さて、興部工場は 1930（昭和 5）年集乳所として開設し、1949（昭和 24）年から粉乳生産を開始、一時は名寄工場の閉鎖に伴い 10 万トン規模のバター工場として住宅の整備などが行われましたが、その後幌延工場にバター製造が再編統合されると職員数は激減し、1979（昭和 54）年から練乳の生産が開始され現在に至っています。このように時々の酪農情勢や乳製品の消費動向により絶余曲折を繰り返し存続してきた興部工場は雪印メグミルクでは一番小さい工場となっていたのでした。

気が付けばあっという間に木々の葉が無くなってしまいました。
カラ松の葉が落ちると根雪と言いますがいよいよ冬ですね。インフルエンザが流行を強めています。うがいに手洗いに勝るものはない
と言いますので、是非とも励行してください。では、また。



お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131 です。

